

市川市立図書館のメールマガジンをお送りいたします。

「メールでのサービス」で配信をご希望された方へお送りしています。

□ ■ □ -----  
■ □ ■ 市川市立図書館メールマガジン 第 133 号 2017.9.30  
□ ■ □ -----

9月も下旬に入り、朝夕にそよぐ風は日毎に涼しくなって、本格的な秋の訪れを感じる今日この頃です。

過ごしやすいこの季節は、絶好の行楽シーズンと言えますが、一方で台風が多く発生し、関東地方にまで接近することも少なくありません。

しっかり万一来てて、しっかり毎日を楽しんでください。

■ ■ 図書館からのお知らせ □ -----

◆ 行徳図書館臨時休館のお知らせ

○ 行徳支所等設備点検のため、行徳図書館は10月7日（土）休館いたします。ご不便をおかけしますが、皆様のご協力をお願いいたします。

◆ 「ひとりで歩いて絵を描いて 百田稔作品展」を開催しています！

“放浪のお絵描きおじさん”こと百田稔（ももだみのる）さんが、旅先で葉書等に描いた作品や旅で使用した愛用の品を展示しています。

○ 期間：10月29日（日）まで

○ 場所：中央図書館 館内展示コーナー

○ 百田稔作品展のページはこちら

<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/info/1224-2.html>

○ 作品展に合わせ、絵手紙の描き方や旅のエッセイの本も紹介しています。秋風が心地よい季節、絵筆を持って旅に出かけてみませんか。

■ ■ タイトルにインパクトのある小説 □ -----

○ 出版社や書店による2016年年間ベストセラーランキングの上位に入った小説『君の臍臓をたべたい』住野よる／著（双葉社 2015）。今年に入り映画化されたこともあり、お読みになられたかたも多いかと思えます。なによりその衝撃的なタイトルに目を引かれた、という読者も少なくないのではないのでしょうか。

○SF小説やミステリ、そしてライトノベルの分野では、作品の持つ性質上、一風変わったタイトルの作品が多く見受けられますが、一般小説にも、絶大なインパクトを与えるタイトルの作品が数多くあります。

○遡れば、今もなお鮮烈な印象を与えるタイトルの作品として、太宰治の代表作『人間失格』を挙げるすることができます。現代においては、『1Q84』や『騎士団長殺し』等、村上春樹の作品は、タイトルからは内容が想像しづらく、興味をかきたてられます。

○そんな思わず二度見してしまうインパクトがあるタイトルの作品を、芥川賞・直木賞作家の作品の中からいくつかご紹介します。

◇『猛スピードで母は』長嶋有／著（文藝春秋 2002）

「結婚するかもしれない」と言う母と、それを冷静に見つめる小学生の息子の物語。独特の文体で、不思議な世界観を堪能できます。

◇『桐島、部活やめるってよ』朝井リョウ／著（集英社 2010）

バレー部のキャプテン桐島が、突然部活をやめたことがきっかけで、同じ高校に通う学生たちの生活にも少しずつ変化が表れていきます。映画も公開されました。

◇『御不浄バトル』羽田圭介／著（集英社 2010）

新卒でブラック企業に就職してしまった主人公たちの物語。小説の舞台はブラック企業ですが、ユーモラスで笑えます。

◇『死ねばいいのに』京極夏彦／著（講談社 2010）

自宅マンションで女が何者かに殺された。突如男が現れ、彼女について知りたいと言う。私は彼女の何を知っていたというのだろう……。怪談物とは一味違った魅力のある作品です。

◇『殺人出産』村田沙耶香／著（講談社 2014）

子を10人産めば1人殺してもいい、そんな制度があったら？荒唐無稽な設定に驚かされます。常識や倫理など、私たちが正しいと思っていることも、時代の流れで変わっていくのかもしれない……

と考えさせられる短編です。

.....  
◇メールマガジンの登録・解除はこちら

<https://opac.city.ichikawa.chiba.jp/winj/opac/top.do>

◇このメールは自動配信されています。このアドレスに返信いただいても内容の確認およびご返答ができません。ご了承ください。

-----  
市川市中央図書館

〒272-0015 千葉県市川市鬼高 1-1-4 047-320-3346  
-----